



初等部だより 9月号

鎌倉女子大学初等部
令和8年9月1日
第6号

桃の木の下には、自然と蹊^{みち}ができる

部長 大塚 俊明

長い夏休みが終わり、元気いっぱいの子どもたちと出会う日を迎えました。私学である本校は、休業中に子どもたちと出会う機会がほとんどありません。長い休み明けは、「みんな元気に過ごしていただろうか」と少し心配な気持ちで子どもたちを迎えることになります。

そうは言っても、夏休み中の子どもたちの頑張りに触れる機会が全くないわけではありません。

なぎなたクラブの児童4名は、夏休み中に神奈川県立武道館で開催された「なぎなた練習会」に参加しました。2日間みっちり専門講師による指導を受けるという貴重な経験を重ね、指導に当たった教員からは、「技にも一段と磨きがかかってきました」とのうれしい報告を受けました。

スイミング・クラブでは、8月11日に鎌倉市の「こもれびプール」で開催された「鎌倉市学童水泳大会」に12名の選手が参加しました。それぞれが自分の記録に挑戦した、充実したひと時を過ごせたようです。校内での練習最終日には、背泳ぎを中心に個人メドレー等で活躍した5年生のFさんと話す機会がありました。「夏休みの水泳クラブに参加して本当に良かった」と話すFさん。よく聞いてみると、夏休みは塾にも通っており大変忙しいとのことでした。「勉強に加えて水泳じゃ身体が大変でしょ。水泳は止めようとは思わなかったの」と尋ねてみると、「いや、水泳をやると体力がつくので勉強のためにもいいんです」という返事。さらに「集中力という意味でも水泳は役に立ちます」と言います。自分の取り組んでいることの意味をFさんなりによく考えているのです。メタ認知ができているというのでしょうか、自分自身を客観的にとらえようとしている姿に感心をしながら話を聞きました。

このように、夏休み中にもそれぞれの目標に向かって努力を重ねる子どもたちの姿に触れ、うれしく思いました。そして同時に、1学期の終業式で子どもたちに話したことを思い出しました。

終業式では、生活の節目に自分自身の在り方を振り返り、「人から信頼される人になってほしい」という私の願いを伝えました。

人から信頼されるということは、何か特別なことをすることではありません。自分がやると決めたことに一生懸命取り組むこと。友達の気持ちを考えること。自分自身を振り返りながら、少しでもよりよい自分になるようにすること。そんな毎日の積み重ねが、やがてその人への信頼につながっていくのだと思います。

そのような人の姿を思わせる、昔から伝わる言葉があります。「成蹊」の由来でもある故事『桃李(とうり)もの言わざれども、下自ずから蹊を成す』です。

桃や李(すもも)の木は何も語りません。しかし、美しい花を咲かせ、おいしい実を結ぶ木の下には自然と人が集まり、いつしか道(蹊)ができます。そこから、徳や魅力のある人の周りには、その人がことさらに人を集めようとしなくても、自然と人が集まるという意味で使われるようになりました。

松坂桃李さんという俳優がいますが、「桃李」は本名だそうです。この故事にちなんで、ご両親の願いが込められた名前なのかもしれません。

本日から2学期が始まります。みどり祭をはじめ、多くの行事を経験する最も長い学期です。勉強や行事に一生懸命取り組むことも、友達を大切にすることも、自分自身を振り返ることも、すべては一日一日の小さな積み重ねです。子どもたちには、「人から信頼される人になりたい」という素直な気持ちを大切にしながら、自分なりの花を咲かせ、実を結んでいってほしいと思います。その歩みの先に、いつしか自然と「蹊」ができいく。子どもたちには、そんな人に育ってほしいと願っています。

一人ひとりにとって実りある2学期となるよう、教職員一同、これまで同様支援に努めてまいります。

今学期も、どうぞよろしくお願いいたします。